

新型コロナウイルスワクチン接種実施体制における薬剤師の活動事例

青森市薬剤師会

4月上旬に青森市保健部より集団接種に関する協力要請があり、対応を進めました。

【要請内容】

- ・ 6/12～8/1 の毎週土曜日午後（13：00～17：00）
日曜日午前（09：00～12：00）午後（12：30～16：30）
※土曜日については、毎週の派遣が業務上難しく初日のみの協力となる
※その後も 10/17 まで再度依頼があったが、国からのワクチン供給不足のため、ひとまず 8/8・22 のみとなる
- ・ 1 会場につき午前午後各 1 名ずつ。1 日を通しての協力も可。
※適正な接種業務における安全管理上の観点から、青森市薬剤師会として各 2 名（8/22 荒川のみ各 4 名）を派遣することとした
- ・ ファイザーの「コミナティ筋注」を使用。65 歳以上の高齢者から開始。
- ・ 協力内容は、希釈と分注。接種補助（充填済シリンジのセットと廃棄）についてはその都度会場ごとに対応が異なる。
- ・ 5V（30 人）/時より開始。中盤より 6V（36 人）/時となり、接種ラインも 1 ライン⇒2 ラインに増設。
- ・ 集団接種会場は 11 ヶ所（8/22 は 5 ヶ所）の市民センターと浪岡公民館。

【対応内容】

- ・ 4/6 協力薬剤師の募集（依頼）・・協力の可否について
- ・ 5/9 集団接種模擬訓練への参加（自由参加）
- ・ 5/27・6/3 ワクチン希釈・分注手技研修会の開催（2 日間同じ内容）
「ワクチン集団接種会場での流れについて」
「新型コロナウイルス修飾ウリジン RNA ワクチン コミナティ筋注について」
「希釈・分注実技」
- ・ 5/27・28 協力薬剤師アンケート・・・日程の最終確認と希望地区について
- ・ 7/29 協力薬剤師の募集（8/8・22 について）
- ・ アンケート内容を基に、事務局にて担当表を作成。開始後状況により担当者の変更等、調整を行った。

【活動内容】

- ・ 参加薬剤師は 105 名。弘前薬剤師会の会員にも一部ご協力いただいた。
- ・ 240 回でのべ 484 名。1～10 回/人で平均 4.6 回。
- ・ 合計予約者 24270 名分（4045 バイアル）の希釈・充填。平均 29 人/時間。
- ・ 1 施設 31～431 名/日。施設毎の平均は 135～228 名/日。
- ・ 受付開始後 20 分ほどしてから接種開始の予定だったが、接種開始時間が早まり、開始時間前（30 分以上前）の集合・業務開始となる場合が多かった（特に午前）。

【現状】

- ・ 9/25 開始の広域接種（県立保健大学）に向け、関係団体と協議・調整中。
以上、ご報告いたします。

八戸薬剤師会

本年の6月より、八戸市の新型コロナワクチン集団接種が始まり、八戸薬剤師会では集団接種会場での相談業務への協力を行っています。毎月、八戸薬剤師会会員の皆様に協力の募集を行い、多くの先生方にご協力を頂きながら現在まで相談業務を継続出来ております。

接種会場における主な業務内容としましては、お薬手帳の確認・予診票の相談チェックのある方への相談対応です。集団接種が始まったばかりの頃は相談業務が主な業務であったものの、手探り状態でスタートしましたので、会場内の相談コーナーの配置が来場者の進路の死角になっていたため、相談件数も少ない状況でした。回を重ねるごとに、医師や市の担当者の方々から相談業務をより良くするための提案をいただいたり、薬剤師会会員からも意見を貰いながら相談コーナーの移動を行ったり、業務内容のブラッシュアップを行い、8月からは相談業務だけではなくお薬手帳の確認も併せて行っております。このようにしたところ、医師からはチェック漏れ防止になって助かる、ジェネリックの知識がないので助かるなどの意見を頂戴しております。

ワクチン供給の見通しが立たず、集団接種の実施体制を縮小していることから、当初の予定より期間が延長されておりますが、引き続き集団接種の相談業務にご協力賜りますようお願いを申し上げます。

弘前薬剤師会

6/14～7/21 の約 1 か月、黒石市の集団接種会場にてコミナティの希積分注操作と医師診察前の問診票確認、看護師などからの薬剤に関する質問への回答などを行いました。42名の薬剤師が近隣市町村から参加し平日の午後半日に1名ずつ、土日は午前午後2名ずつ業務支援を行った結果、延べ60回の支援となりました。黒石市での支援業務で特徴的なことは、平日の午後にも支援依頼があり、ほぼすべての日程に協力できたことです。黒石市から薬剤師支援依頼があった直後に、希積分注手技の練習会を3回開催し作業に臨みました。問診票の確認は看護師と並んでブースを担当し、毎回60名ほどの問診票の確認を行いました。支援が終了した後に、参加者へアンケートを行った結果、ほとんどの薬剤師が参加前は支援業務に不安を抱えていたことが分かりましたが、参加したことで地域に貢献できた実感を得ることが出来、再度依頼された場合は積極的に参加したいと回答してくれました。